

# ポンプ車等設営訓練を実施

～訓練を重ねることは、職員の意識も重ねること～

今年9月の台風第15号や10月の台風第19号により甚大な被害が発生した地域に対する支援として、水資源機構のポンプ車、ポンプパッケージ及び発動発電機（以下、「ポンプ車等」という。）が活躍しました（P18「水機構ニュース」参照）。

近年、機構が備えているポンプ車等の出動要請が多くなっており、さらに今後も、支援要請の増加が見込まれると見られます。これら支援を迅速に行うためにも、ポンプ車等の能力や性能を職員が理解し、操作技術を習得しておく必要があります。

このような状況を踏まえ、機構では職員向けのポンプ車等の設営訓練を適宜行っています。

今回は先日本社水路事業部の指導によって行われた設営訓練の状況についてお伝えします。

令和元年10月29日、小雨模様の中、群馬用水施設内（群馬県北群馬郡榛東村）において、ダム系事務所職員を対象に設営訓練を行いました。参加者は機構本社ダム事業部や沼田総合管理所、下久保ダム管理所及び草木ダム管理所の職員、また、農林水産省の職員も含め、計16名でした。

午前は排水能力毎分10立方メートルのポンプパッケージ（以下、「10<sup>m</sup>ポンプパッケージ」という。）を格納している群馬用水施設の倉庫にて、支援に必要な機材の確認や発動発電機及びポンプパッケージを倉庫から搬出し①、クレーン付きトラックへの積み込み訓練を行いました。

参加者は倉庫内の発動発電機及び10<sup>m</sup>ポンプパッケージを油圧式のハンドリフトで持ち上げ、クレーン付きトラックの近くまで搬出し、その後、クレーンを使ってトラックの荷台に積み込みました②。積み込んだ発動発電機及びポンプパッケージが悪路を走行しても動じないように、ベルトを使ってしっかり固定しました。初めはハンドリフトの操作に手間取っていた参加者も徐々に要領をつかみ、スムーズに倉庫内から搬出することができるようになりました。

今回の訓練では搬出作業に1時間強を費やしましたが、日頃訓練を重ねている群馬用水管理所の職員達は30分で行えるとのことでした。

さらに雨脚の強まった午後、榛名流況安定施設（群馬県北群馬郡榛東村）へ移動し、排水能力毎分60立方メートルのポンプ車（以下、「60<sup>m</sup>ポンプ車」という。）を使った設営及び運転訓練を行いました③。

手順として、まず、60<sup>m</sup>ポンプ車に搭載されているポンプを下ろし、備付けの電源ケーブルを事故防止のために伸ばします。次にポンプと排水ホースをクランプで接続し、排水ホースを排水先まで伸ばします。その後、電源ケーブルをポンプ車の操作制御盤コネクタ



1



2



3



仕様及び配備数	ポンプ車1 (22t車)	ポンプ車2 (8t車)	ポンプパッケージ (1箱当たり)
総排水量	60 m <sup>3</sup> /min (水中ポンプ 5 m <sup>3</sup> /min×12台)	30 m <sup>3</sup> /min (水中ポンプ 7.5 m <sup>3</sup> /min×4台)	10 m <sup>3</sup> /min (水中ポンプ 5 m <sup>3</sup> /min×2台)
配備事業所及び配備数	利根導水 愛知用水 筑後川下流用水 各事業所1台	千葉用水 豊川用水 香川用水 各事業所1台	利根導水 霞ヶ浦用水 群馬用水 愛知用水 三重用水 木曾川用水 香川用水 筑後川下流用水 両筑平野用水 各事業所2箱

に接続し、ポンプには回収用の係留ロープと水面に追従させるためのフロート（浮き輪）を取り付けたのち、調整池の中に投入します④⑤。全ての接続が完了したら、操作制御盤の電源を入れスイッチを押すとポンプが稼働し、排水ホースから水が排出されます。

参加者達は群馬用水管理所の職員達のデモンストレーションを見学したのち、3班に分かれ、班毎にポンプ設営訓練を体験しました。

講師から支援先での注意事項として、現地の排水先に応じて排水ホースを伸ばすため、どの位置が効率的かをよく考えてポンプ車を駐める必要があるといった説明に、参加者は実感と共に理解を深めていました。

最後に撤去作業を行い、設営及び運転訓練は終了しました。実際の設営作業では10<sup>m</sup>ポンプパッケージは4人、60<sup>m</sup>ポンプ車は6人で設置し、稼働させているとのことでした。

今回の訓練について、参加者に話を聞いたところ、「実際のポンプの設営・稼働について認識を改めた。」「間近で毎分15立方メートルの水が排出されている（ポンプ3台分）のを見ると、台風による浸水等の被害が発生した際、ポンプ車による支援は大変役に立つだろうと思えた。今後は率先して支援に参加したい。」「技術的な面でも、災害支援という意識面でも、訓練を重ねることが大切。」といった感想がありました。

機構では、このような訓練を継続的に行い、職員の危機対応能力の向上に日々努めるとともに、地域社会に貢献できる体制づくりを推進していきます。



4



5

支援活動に関する情報は  
こちらをご覧ください



<https://www.water.go.jp/honsya/honsya/torikumi/index.html#support>



みずしげんきこう  
水資源機構